

前橋版CCRC構想策定にあたっての論点

第1回前橋版CCRC構想推進協議会

1) 前橋版CCRC基本方針

- 本推進会議において、基礎調査結果を踏まえ、前橋版CCRCを実現していく際の考え方として、必要な取り組みや活かすべき前橋の資源などについて、アイデアやご助言をいただきたい。

- ① “健康医療都市前橋”として、地域包括ケアによる健康や安心の提供に加え、地域住民や移住者（東京圏からのアクティブシニアや子育て層）が住み続けられるまち、生涯活躍できるまちとするために、活用すべき「前橋ならではの」資源として何があるか、新たに必要な取り組みは何か？
- ② 市内全体でCCRCに取り組んでいくために、各地域（中心部／郊外／北部等）において活かせる資源や取り組みは何か？
- ③ 目指す姿（①～②）を実現する担い手、連携先としてどのような機関が考えられるか？

2) 日赤跡地CCRC計画

- 上記を踏まえ、今後、事業者を選定して実際に拠点づくりを図っていく上で、有効な取り組みや留意すべき事項などについて、アイデアやご助言をいただきたい。

- ① まちなかの大規模な病院跡地という立地特性を踏まえ、市内最初のCCRCの拠点として、今後のモデルとなることを考慮し、どんな取り組みをしていくべきか？
- ② 上記（①）を実現するために活用可能な資源、担い手として何が考えられるか？
- ③ 今後の事業化にあたって留意すべき事項はあるか？

1) 前橋版CCRC基本方針

【論点】

- ① “健康医療都市前橋”として、地域包括ケアによる健康や安心の提供に加え、地域住民や移住者（東京圏からのアクティブシニアや子育て層）が住み続けられるまち、生涯活躍できるまちとするために、活用すべき「前橋ならではの」資源として何があるか、新たに必要な取り組みは何か？

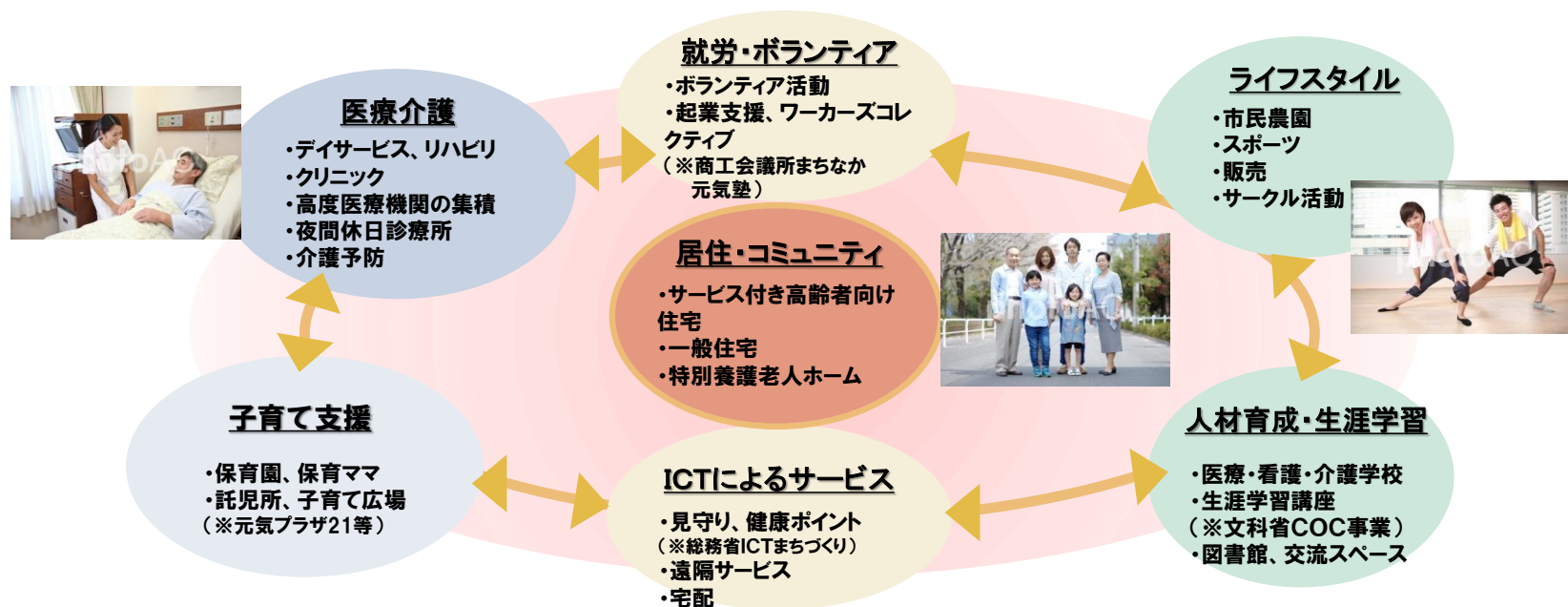
<前橋の強み／弱み>

		S : 強み	W : 弱み
		・<u>重粒子線治療等の高度医療</u>を含む医療機関の集積 ・<u>自然環境と畜産等の食文化</u> ・東京から程よい距離にある良好な居住環境	・公共交通の利便性が弱い ・若年層の流出、雇用のミスマッチ、介護の担い手不足 ・高齢化の進展 ・東京に対する魅力、P R 不足
O : 機 会	・東京圏の介護資源の不足 ・健康に対する意識の高まり	【医療・食を核としたCCRC】 ・医療機関の集積を活かした安心な居住環境 CCRCの拠点形成 ・CCRCをフィールドにした健康にかかわる産業創出（食、ICT、アンチエイジング、医療観光）	【魅力向上・PRに寄与するCCRC】 ・健康（医療、食等）の産業強化による雇用創出、情報発信 ・CCRCの拠点形成と合わせた公共交通ネットワーク改善
T : 脅 威	・医療介護負担の増大 ・都市間競争の激化	【地域の活動を活性化するCCRC】 ・CCRCを契機とした予防につながる地域活動の充実 ・上記を促す交流の場の形成、地域活性化の活動の促進	【地域の活動を活性化するCCRC】 ・介護・子育て＋交通・ICT関連の担い手の育成とその交流拠点の形成

＜前橋版CCRCの目指す姿（再掲）＞

- 自然環境と医療の充実をベースに、地域特性に応じた CCRC を展開し、東京圏からの高齢者及び子育て層を呼び込む
- 安心・健康・快適な住環境を実現し、市民も生活の質の向上を享受
- 健康、予防等の新たなサービス提供を地域の雇用創出につなげる

＜提供する機能のイメージ（再掲）＞



「前橋版CCRC基礎調査」より（再掲）

【論点】

② 市内全体でCCRCに取り組んでいくために、各地域（中心部／郊外／北部等）において活かせる資源や取り組みは何か？

＜地域特性に応じた展開例（再掲）＞

- 市内には、地域包括支援センターを中心に、在宅での介護をサポートする基盤が構築されている。
- こうした土台の上に、子育てや教育（人材育成）、地域の生活支援や交流機能を担う
- CCRCの拠点を設けることで、いわば「次世代型地域包括支援ケアシステム」を構築し、市内各地域の生活の質を向上させていくことが考えられる。

✓ 北部地域（例：富士見、宮城、粕川、大胡、芳賀）

恵まれた自然環境を活かした趣味や就農等の移住者受け入れのCCRC

✓ 中心部（例：本庁地域、元総社、東）

各種都市機能が集積するまちなかに程近く、高齢化が進行していることを踏まえた移住者と地域住民が交流・活用する産業創出・人材育成拠点を含むCCRC

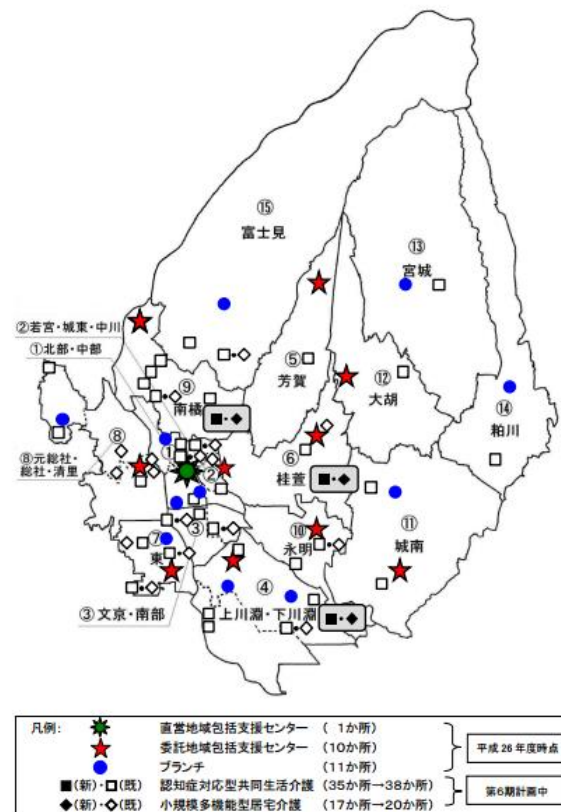
✓ 郊外部（例：桂萱、永明、城南、上川淵、下川淵、南橋、総社、清里）

田園と住宅等が混在する郊外部では、空き家等を活用した子育て層を中心にアクティブシニア層も含めた住まいと生活サポート拠点を形成するCCRC
（「前橋版CCRC基礎調査」より）

【論点】

③ 目指す姿（①～②）を実現する担い手、連携先としてどのような機関が考えられるか？

図表 日常生活圏域（15 圏域図）と
地域包括支援センター・地域密着型サービスの配置イメージ



（前橋市介護保険事業計画より）

2) 日赤跡地 C C R C 計画

【論点】

- ① まちなかの大規模な病院跡地という立地特性を踏まえ、市内最初の C C R C の拠点として、今後のモデルとなることを考慮し、どんな取り組みをしていくべきか？
- ② 上記を実現するために活用可能な資源、担い手として何が考えられるか？

＜日赤跡地モデル（再掲）＞

- まちなかでの医療介護拠点にふさわしい立地を活かして、前橋版CCRCの先駆的拠点として、市内に先駆けてモデルを構築する
- CCRCの基本機能である、住まい、医療介護、教育（就労）に加え、「前橋ならではの」付加価値をつける
- 具体的には、東京圏からの移住者の受け入れとともに、高齢化が進行する周辺地域の生活サポート機能、居住者や地域住民がいきいきと活動することができる交流拠点を形成し、対外的な P R にもつながる魅力を発信する

＜日赤跡地で提供していく機能イメージ（再掲）＞

基本機能	追加機能（付加価値）
住まい - 高齢者向け住まい（特別養護老人ホーム、サービス付高齢者向け住宅） - 子育て層を含む広く一般に向けた住まい（戸建中心）	集合住宅（転勤者、お試し居住、医療観光者等向け施設）
医療介護 地域の安心を支える在宅介護や子育てを支える機能（デイサービス、リハビリ、訪問サービス拠点とこれらの相談を含む地域包括支援センター） ※夜間急病診療所が移転予定	健康維持増進（食、アンチエイジング、運動等）
生きがい創出（ライフスタイル、人材育成・生涯学習） 生涯教育、就労による生きがい創出、各種活動の担い手育成のための市民大学機能	- 市内の農産品等のマルシェ、豚等の地域資源を活用した飲食店の出店、イベント機能 - まちなかとの連携によるまちづくり活動（学生居住・シェアハウス、まちなか研究室との連携等）
その他生活環境	- 地域の生活サポート機能（子育て、買い物支援・日常生活サポート、見守り等） - 駅や市内の移動のための交通環境の確保

【参考】

＜跡地の概要＞

- J R 前橋駅徒歩約15分～20分（バス約7分）
- 面積：日赤保有30,566.89㎡、前橋市保有7,951.52㎡（うち日赤借地4,498.24㎡）
- 都市計画：第一種住居地域（60／200）

＜前橋赤十字病院の現況（再掲）＞



＜周辺の資源など＞

機能	地域資源
居住・コミュニティ	空き家利活用センターやまちなかでのシェアハウス、前橋まちなか研究室、前橋〇〇特区等の取り組み
医療介護	夜間急病診療所の移転、高度医療機関の集積、重粒子線治療、アンチエイジング、介護予防（ふれあい・いきいきサロン、いきいき健康教室、見守りシステム等）
子育て支援	前橋子ども公園、保健センター、保育園のほか、子育て支援センター、児童文化センター、子ども図書館等
人材育成・生涯学習	大学や専門学校の集積、知の拠点事業による地域学習、商工会議所によるまちなかキャンパス等
ライフスタイル	豚肉料理（T-1 グランプリ）等の食、まえばしシクロクロスやサッカー等のスポーツ、赤城山の自然環境等
就労・ボランティア	就農、群馬イノベーションアワード、ボランティアセンター、シルバー人材センター等
ICTによるサービス	ICTしるくプロジェクトによる母子健康情報サービスの実証事業、ICTまちなかキャンパス

【論点】

③ 今後の事業化にあたって留意すべき事項はあるか？

＜事業化にあたって配慮すべき事項（再掲）＞

事項	内容
① 民間資金の導入、財政負担の抑制	日赤、前橋市の双方にとり、敷地が有効活用され、民間事業者への売却等により財政負担を抑制すること
② CCRCとしての事業性	民間事業者が参入するだけでなく、継続的に運営されること、そのための需要にあった事業であること
③ 地域への貢献	地域包括ケア、子育て支援の充実、雇用や生きがい創出等の新たな価値の提供によって地域住民の利便性、暮らしやすさが高まることが必要であり、地域の利用にも資するものであること
④ 病院の移転スケジュールとの整合性	平成30年6月の移転後、速やかに土地活用が図られ、日赤の新病院の運営に支障がないこと